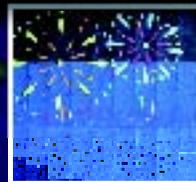


# こもれび

夏

第22号

発行:2009年7月1日  
向陽台病院広報委員会



夏をイメージしてデイケア・病棟の患者さんたちが制作した作品

## CONTENTS

- 新病棟のご紹介「南3病棟—児童思春期ユニットを中心に」
- 精神障害者保健福祉手帳による「バス運賃割引」が始まりました
- 新しい先生のご紹介!
- 地域連携「第1回認知症家族教室 開催」  
「城北大会に参加して」「ミニバレーボール大会」
- デイケア女性グループ「アンシャンテ」

## 向陽台病院の理念

心を病む人の立場に立った専門的精神科治療の提供を行う

地域への精神科医療の啓発活動を通じて心を病む人のみならず、地域住民の心の健康増進に貢献する

- 地域の様々な資源との連携の強化を目指します—医療・福祉・教育・産業・地域社会と積極的な連携が出来るように—
- 良質で安全な医療の提供を目指します—相手の立場に立ち、私達が安心して自分の家族を任せられるように—
- 専門性を高め、より高度な知識・技術の向上を目指します。—新しい技術・知識の習得、研鑽を心がけるように—

新病棟のご紹介

# 南3病棟 児童思春期ユニットを中心に



ダイニングルーム

新館・最上階にあたる3階に位置する南3病棟は、下の階とは少し異なる構造になっています。大きく二つに分けて、西側に成人の患者さんの入院エリア、東側に未成年の患者さんの入院エリア「児童思春期ユニット」で構成されています。個室を中心とした男女混合の閉鎖病棟にて運営しています。

児童思春期ユニットは、全国でもまだ数が少なく、熊本県下では初めての認可を受けて、定床11床から開設しました。心の問題を抱えた子どもたちの受診が増えており、入院治療の必要性を受け設置いたしました。

ハード面の特徴について、壁



児童思春期ユニットの一角

面の色調は四季を意識した配色を用い、天窓で採光をとり明るさを保つような造りとし、ダイニングには観葉植物や絵画を取り入れています。また、学習室の利用ができます。ソフト面

では精神保健指定医、看護スタッフ数など認可基準に沿った人員配置です。臨床心理士、精神保健福祉士が専任で勤務しており、多職種でのチーム医療を行っています。年齢層としては、小学校高学年から未成年の方までを対象にしている、疾患の内訳としては、発達障害の方が多いですが、気分障害、摂食障害、強迫性障害の方も入院されています。

入院治療は、薬物療法、精神療法とともに、作業療法やミーティングなどのプログラムによって行われます。そのうち治療プログラムについては、既存の成人患者さん向けの内容だけではなく、児童思春期ユニット独自の内容構成となっています。作業療法では運動や創作活動などをおして集団適応を高めるプログラムを組み込み、管理栄養士による栄養指導、薬剤師による服薬指導などを定期的に行っています。外部の先生を交えた学習支援を行い、学習面でのサ

ポートも行っています。週ごとにスケジュールを個別に作成することで、生活リズムが整うよう援助しています。

このように疾患と年齢特有の課題、対人関係スキルの獲得など個別の治療目標に取り組むことができるよう配慮しています。私を含めスタッフは試行錯誤しながら子どもたちと一緒に成長している段階ですが、チーム医療で取り組むことで方針を確認し合っています。家族面談では



児童思春期ユニットの居室

対応の仕方について一緒に考える機会を設け、関係機関との連携が必要な方は支援体制づくりを行っています。

今後の病棟運営では児童思春期ユニットを増床することも検討しており、専門性を高めつつ治療空間の充実を図りたいと考えています。将来は当院内で抱え込み完結するのではなく、地域の医療・福祉・教育のネットワークをつくりつなげることを目標にしたいと考えています。

(診療部 児童精神科医

小山 裕子)

# 精神障害者保健福祉手帳による 「バス運賃割引」が始まりました

これまで、身体障害者手帳・療育手帳を所持している方はバス運賃の割引サービスを受けることができましたが、精神障害者保健福祉手帳を所持している方は対象ではありませんでした。自治体によっては、独自の制度で精神障害者保健福祉手帳でもバス運賃の割引を行っているところもありましたが、ごく一部でした。

平成18年度から熊本県の当事者会や家族会、熊本県精神保健福祉士協会、熊本県精神科病院協会などが中心となり、精神障害者もバス運賃の割引対象となるよう、街頭での署名活動などのさまざまな活動が行われてきました。

①対象	写真が貼付された精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方 (写真がないものは不可)
②割引運賃	運賃が半額(普通運賃の2分の1で10円単位で四捨五入) 定期券は3割引 バス共通カードを利用する場合も割引
③対象となる交通機関	産交バス、熊本市営バス・電車、熊本電鉄バス・電車 熊本バス、熊本都市バス ※一部コミュニティバス、高速バス、特急バス、九州横断バス、定期観光バスは対象となりませんのでご注意ください
④利用方法	運賃支払いの際、精神障害者保健福祉手帳の写真が貼付されたページを乗務員に提示する バス共通カード利用の場合も支払いの際に乗務員に申し出る

そのような活動が実り、平成21年4月1日から熊本県下全域で精神障害者保健福祉手帳を提示するとバス運賃が減額されることとなりました。

この機会に公共の交通機関を利用し、皆さんの外出の機会が増

えることを願っています。

精神障害者保健福祉手帳の申請をご希望の方は、居住地の役所、もしくは病院ソーシャルワーカーにご相談ください。

(リハビリテーション部

精神保健福祉士 吉田 祥子)

3

## New Face 新しい先生のご紹介!



診療部 医師  
村上 真紀

はじめまして。4月1日から向陽台病院に就職しました村上真紀です。昨年度までは熊本赤十字病院に勤務していました。日赤では主に子どもたちの身体の病気についてのケアをしていましたが、向陽台病院ではこころ・身体両方の健康管理に取り組みたいと思っています。

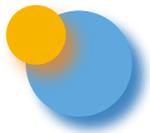
こころと身体の関係はとても密接で、自分の気持ちを十分に言葉で表現することができないと、こころの症状が身体の症状となって出てきます。そういう苦しみを持つ方々が元気を取り戻すお手伝いができるようになりたいと思っています。どうぞよろしくをお願いします。



診療部 医師  
橋本 加代

こんにちは。精神科医師の橋本加代と申します。当院には、医師になりたての平成13年6月から平成16年3月まで週1回非常勤医師として勤務しておりました。その後しばらく離れておりましたが、平成20年6月から再び週1回、そして本年4月からは週3回(月・火・金)非常勤医師として勤務しております。

これまで、国公立の病院、総合病院での勤務が中心であったこともあり、治療に関わるスタッフ数が少なく、患者さんとそのご家族のみを対象にした医師中心の治療にならざるを得ないことが多々ありました。当院では、地域とのつながりを意識しながらさまざまな職種のスタッフとともに治療に関わっていけることを非常に嬉しく、心強く思っております。今後ともよろしくお願いたします。



## 地域連携

### 第1回認知症家族教室 開催

●テーマ

## 認知症について

平成21年3月28日(土)午前10時～11時半、当院北1階デイケア室で第1回目の認知症家族教室を開催しました。この教室は当院通院中、入院中の認知症の方のご家族を対象として、年4回開催する予定です。医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士が交代で講師の担当をして、疾患、患者さんへの対応、リハビリの方法、利用できる社会資源について、簡単に講話をした後、参加していただく方々が日ごろ抱えている悩みや不安などを自由に語り合っていたりするような会にしていければと思っております。

今回は「認知症について」という主題のもと医師の大石宗高より認知症の病態、人間の価値、主体的に選り取った生活スタイルが無理を続けると脳にまで影響を与えること、認知症の予防や治療法についてといった多岐に渡り話をさせていただきました。

病歴が長い方から最近初診された外来の患者さんのご家族など、合計4名の参加がありました。皆さん状態や年齢、環境も違いますので、抱える悩みや不安、戸惑いも異なりますが、ご家族同士が経験に基づくアドバイスや介護の工夫など、自由に意見交換がされていました。

あるご家族からは、「物忘れがひどく、夜間にはトイレを探して家の中を徘徊して転倒する。部屋にポータブルトイレを置いた方がいいのか。でもそうすると足腰が弱っていくのではないかと心配」と生活場面に即したご意見や、「入院当初は家族が財産を盗ると言われて責められて辛かったが、最近は穏やかになって少しホッとしている。面会に行くのが億劫だったが今は必ず洗濯物を取りに行き、面会するようにしている。孫たちはまだ精神科に抵抗があるようだが」とのご意見もあり、それらに対しご家族同士で共感し、アド

バイスをされ、活発に意見が飛び交っていたことが印象的でした。

同じような体験をしたご家族だからこそ、分かりあえることがあり、そのような普段なかなか話せないような思いをこの教室で語り合うことによって少しでも負担が軽くなり、認知症を抱える方と向き合っていくための活力になればいいなと感じました。

そして、この教室でご家族を支えることによって、認知症を抱える方が、自身の思い描く生活を可能な限り送れるよう、サポートしていければと思っています。

#### ◎今後の開催予定

第2回 6月27日(土)午前10時～11時半

テーマ 認知症の方への対応

担当 看護師

第3回 9月26日(土)午前10時～11時半

テーマ 家庭でできる予防とリハビリテーション

担当 作業療法士

第4回 12月26日(土)午前10時～11時半

テーマ 地域で認知症の方を支えるには

担当 精神保健福祉士



※日時、開催場所が変更になる場合がございます。

参加をご希望される方、この会についてお尋ねがある方は、ご遠慮なく当院精神保健福祉士までお問い合わせください。

(リハビリテーション 部精神保健福祉士 関 久美子)



## 城北大会に参加して

4月15日、今年も毎年恒例の城北大会を植木町立体育館で行いました。「城北大会」は、菊池有働病院、山鹿回生病院と向陽台病院の3病院で行う、患者さんのレクリエーションおよび友好を目的としたものです。

今年は向陽台病院が担当で、準備から行うことになりました。競技に関しては、昨年はグランドゴルフを行いました。今回は屋内でできるものと考え、ビーチバレーボールとしました。参加者はデイケアメンバーと入院患者さん30名、レクリエーション委員会のスタッフ17名、合わせて47名が参加し、1チーム5名の2チームで病院対抗の試合を行いました。

デイケアでは、毎週木曜日の運動プログラムでミニバレーを行うことが多いですが、今回のために前もってビーチバレーの練習にも取り組みました。その成果がでたのか、1回戦は2チームとも惜敗しましたが、その後一進一退を繰り返して、6チーム中3位という成績を挙げることができました。見学で参加した患者さんも多く、試合場の外でも他の病院の患者さんとも交流が広がっているようでした。

また、朝からの参加者は、昼食に出たお弁当が普段と違うので、美味しそうに食べていました。

閉会式の前には来場している全員でじゃんけんゲームを行い、商品を巡り熱いバトルが繰り広げられました。何人もの患者さんが嬉しそうに、また、スタッフまでが商品を無邪気に受け取る姿が印象的でした。

毎年恒例の行事であり、準備が大変ではありますが、いつもと少し違う皆さんの表情や、活気のある姿を見ることができ、また来年多くの方々と参加していきたいと思いました。

デイケアでは、これ以外にもさまざまな行事に参加していきます。興味のある方はぜひ主治医に相談してご参加ください。お待ちしております。

(デイケア 看護師 岩崎 登美子)

## ミニバレーボール大会

桜の花も散り、日差しが眩しいこの時期に毎年行われる日本精神科看護技術協会親睦「ミニバレーボール大会」が開催されました。30弱のチームが4月18日、熊本県立体育館に集結し、当院からもスタッフ20名が参加しました。毎年上位にランクインしている当院では、今年も約1カ月前から練習に取り組んできました。

試合当日、選手と応援者が集結しており、熱気に包まれていたのを思い出します。私自身、今年が初参加で、緊張感と「プレーするからには優勝したい」という気持

ちが高ぶってきました。当院からは、A・B・Cと3チームに分かれて出場し、見事Aチームが予選リーグを突破することができました。

昼食を挟み、いよいよ午後から決勝リーグの幕明けとなりました。会場のボルテージも上がり緊迫した空気が漂っていました。

決勝リーグ第1戦は毎年上位に名を連ねている「菊池有働病院」。身体的にも疲労が溜まってきている状況で、持てる力を十分に発揮し臨んだ結果、勝利を掴みました。続く準決勝も勝利し、いよいよ迎えた決勝戦。対戦相手は「あおば病院」。恐らく初顔合わせだろうというチームに対して当院プレーヤーからは笑顔が消え、優勝の2文字を追いかけていました。最初は相手の勢いや雰囲気には押されつつありました。しかし、中盤に差し掛かっていくうち、徐々に挽回し、接戦を繰り返す白熱した試合展開となりました。1セット・2セットとストレートで勝利し、ついに念願の優勝を掴むことができました。試合直後、応援しているスタッフから上がった大歓声が目撃されました。他病院との交流や親睦、当院でもチームワークが深まった1日となり、楽しく過ごせました。

(看護部 荒木 高浩)



# デイケア女性グループ アンシャンテ

デイケア女性グループ『アンシャンテ』は平成20年の4月にスタートしました。フランス語で「はじめまして」という意味のこの名前は、この場をきっかけにして、次のステップへ進むことができるようにとメンバーが考えました。少人数のゆったりとした雰囲気、週3回、火・水・金の午後に開催しています。

## Q どんな活動を していますか？

### 講師によるヨガ療法

火曜日 14:30～16:30

ゆったりとした雰囲気の中で、じっくり身体に向き合うことができます。「緊張しやすい」「ついつい無理をしてしまいがち」といった方に好評です。また、一人で行う内容がほとんどですので、人付き合いが苦手の方にもお勧めしています。

### 動く・創る・癒しの活動

水曜日 13:00～15:30

小物作りやアロママッサージをしながらゆっくり話をしたり、最後に茶話会を開いたりして交流を深めています。話をすることで、「自分だけじゃなかったんだ」「私にはこんな特徴があるなあ」と気付かれるようです。



### 料理

金曜日 14:30～16:30

気分の落ち込みや集中力の低下などで家事ができなくなることがあります。一番身近なことで、いつもやっていることでも、仲間やスタッフと一緒にやることで、楽しみや自信を取り戻していけるのではないかと考えています。

スタートしてまだ1年ですが、これらの活動をとおして、自分と向き合い、復職や就職を実現させたメンバーも徐々に増えてきています。

## Q どんな方が 参加していますか？

「何か始めてみたい」「復職・就職に向けて」「大人数はちょっと苦手・・・」「女性だけの方が安心」という方々が参加しています。病状や目的に合わせて、どの曜日に参加するか決めていきます。

## Q どうやったら 参加できますか？

『アンシャンテ』はクロズド（参加メンバー固定）のグループになっています。参加を希望される場合はまず、主治医にご相談ください。

当院では女性グループのほかに、月～金曜日、通常のデイケアも開催しており、目的や必要性に応じて、他の活動と組み合わせたり、お勧めしたりすることもあります。

担当のスタッフが参加回数や参加するプログラムを一緒に考えていきます。他院に通院中の方でも、当院のデイケアだけ参加することは可能です。（※ただし、デイケア参加前に当院の受診が必要です。通院先の主治医の先生にご相談ください）

（リハビリテーション部

臨床心理士 杉本 千佳子  
作業療法士 江口 紗代）



# こもれびプラザ

向陽台病院ではさまざまな情報を発信しています

## 退院促進のための取り組み

現在の精神科病院においては、短期の入院治療とともに、社会的入院（長期入院）を減少させる試みが行われ、療養病棟でも積極的に退院促進の役割も担っています。当院でも、平成20年度地域移行支援事業において県より、山鹿保健所管内から当院も含め10名の長期入院の患者さんへの退院促進を指定されました。その動きの中で、当病棟では入退院を数回繰り返している方と、当院開設時である約40年間一度も退院していない方二人が、退院の意思を示されました。そこで、退院後の社会生活を行う上で患者さんが抱える問題は何か、多職種が集まり何度もカンファレンスを行いました。

外に出るのが怖いと不安を言われるため、毎日スタッフ付き添いでの外出を行い、1カ月間の生活費の使い方を一緒に考え、ATM（銀行）の操作の方法、外出先から当院への電話の入れ方の練習などにも取り組みました。退院予定先へ試験外泊を行い、お風呂の使い方（お湯溜めや浴槽の掃除）、トイレ（和式・洋式）の使用法の違い、食料品や日用品の購入法、食事の作り方を何度も繰り返し実践しました。

ほとんどの患者さんは入院当初『早く退院したい』という気持ちが強かったと思われませんが、入院が長期になるほど帰る場所を失い、退院したい意欲が失われてしまいます。病院での生活は良くも悪くも、ある程度管理された生活であり、この環境に適応することが社会参加を拒む原因となっています。上記のようなさまざまな訓練や練習を通して、新たな生活力を獲得する必要があったのです。ホスピタリズムをつづけているのは何も患者側だけの問題ではなく、医療者側の問題でもあったことを実感させられました。

今回、地域移行支援事業を利用し、多職種がチームとなり一人の患者さんに関わり、改めてチームの重要性を感じました。40数年間一度も退院されなかった患者さんが、自ら「退院したい」と希望し、共同住居へ、また自宅へ退院希望されていた患者さんが話し合いを繰り返す中で、最終的にはグループホームと決めて退院されました。入院生活ではない「日常生活」の中で入院中とは異なり、自己決定を必要とすることが多くなると思います。今後も、患者さんの意思を真剣に受け止め『その人らしく』生活できるよう、多職種と連携を取りながら、退院促進に取り組んでいきたいと思っています。

（看護部 山下 武代）

**動向を探る** 向陽台病院を利用されている患者さんの動向を掲載しています。

（単位：人）

集計月	外来延数	新患者数	1カ月ごとの入院退院者数	
			入院	退院
2009年 3月	3,099	53	43	41
2009年 4月	2,946	54	39	31
2009年 5月	2,854	48	40	39

## そよ風 総会報告

平成21年4月25日（土）にそよ風家族会が開催されました。当日はあいにくの雨模様でしたが、初めて参加される方も多く、20家族21名の参加がありました。今回は、平成20年度の活動報告と会計報告があった後、「統合失調症の人の回復力を高める家族のコミュニケーション」というDVDによる学習会を行いました。DVDの中では、SSTリーダーの高森先生が、幻覚・妄想を訴える統合失調症の患者さんに対して家族がどのような対応をしたら良いか、グループワークを用いながら講義をしている内容でした。

参加のご家族は、講師の言葉に頷いたり、メモを取ったりされており、「家族が本当に知りたかった対応の仕方が聞いて良かった」「勉強になった」など好評を得ることができました。また、「頼みごとひとつにしても、どう声をかけたら良いか悩んでいた」など、日ごろ困っていることも自然に出され、同じような体験をされている他のご家族からアドバイスされる場面もありました。

まだまだ話し足りないといった雰囲気なのか、今年度はご家族の対応について学ぶ機会を企画していこうということになりました。次回は7月です。また有意義な時間が過ごせるよう計画していきたいと思えます。ご参加いただいたご家族の皆さん、ありがとうございます。

（リハビリテーション部

精神保健福祉士 春木 あゆ美）

■次回家族会（予定）

平成21年7月25日（土）10:00～12:00



当院では、今秋の病院機能評価受審に向け、さまざまな準備が進んでいます。慌しなくなりがちなときだからこそ、何ごとにも少し余裕を持って取り組みたいものです。

（須藤 晶子）

# 外来担当医一覧表

※下記担当医は変更する場合もございます

	月	火	水	木	金	土
午前	非常勤医師	横田 田中(隆) 松本	横田	田中(隆) 非常勤医師	横田 松本 非常勤医師	週替わり
午後予約	田中(亨) 非常勤医師	田中(亨) 非常勤医師	非常勤医師	非常勤医師	思春期外来 横田 佐藤	

(2009年7月1日現在)

- 診療科目 精神科・心療内科
- 特殊外来 もの忘れ外来  
児童思春期(発達障害)外来
- 病床数 220床
- 外来診療時間  
月～金曜日 午前9時40分～12時00分  
午後2時30分～5時00分
- 土曜日 午前9時40分～12時00分

新患は予約制です。予約受付：096-272-5250  
 <平日：午後4時まで/土曜日：午前11時まで>

祝日は平常通り診療しています



- 産交バス  
向坂バス停から  
徒歩3分  
明治乳業バス停から  
徒歩3分
- 車  
植木ICから10分
- JR  
植木駅下車  
タクシーで6分



日本精神神経学会専門医研修指定病院 日本精神科病院協会認定専門医研修病院  
 2005年から日本医療機能評価機構の認定を受けています

## 医療法人横田会 向陽台病院

〒861-0142 熊本県鹿本郡植木町大字鑑田 1025  
 TEL: 096-272-7211・FAX: 096-273-2355

<http://www.koyodai.or.jp/>

